

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391000425		
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	グループホームやすらぎの里 中野新町 (1階)		
所在地	愛知県名古屋市東区中野新町3丁目51番地		
自己評価作成日	令和4年2月18日	評価結果市町村受理日	令和4年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2391000425-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2391000425-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自立を尊重し、やれることはやって頂く。</p>
----------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者は、「利用者職員が支え合う大家族のような笑顔のあるホーム作り」に取り組んでいる。日常生活の中で、職員は利用者の持てる能力を最大限に活かすために利用者の傍に寄り添い、相手の立場に立って支援している。必要以上に手を出さず、適切なタイミングで言葉掛けを行い、家事や洗濯等の日常生活への参加が多くなった。裁縫が好きな利用者が、職員のボタン付けや雑巾縫いなどを行っている。職員からの感謝の言葉が、自信に繋がっている。利用者から「何かやることない？」と積極的な声が掛かり、「私もまだできるのね」との言葉が聞かれる。 職員の人間関係も良く、風通しの良い職場環境が利用者の日常生活を支えている。家族から「家庭的」との言葉もあり、職員は利用者の充実した生活支援に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔と挨拶と助け合い 愛にあふれる中野新町作り」を理念とし、実践につながるよう努力している。散歩の際は挨拶を心掛けている。地域の方がホームに足を運んでくれるようにイベントの呼びかけをしている。(コロナで今年度は中止)	リビングに理念を掲示し、職員は利用者と笑顔で挨拶を交わして仕事に取り掛かっている。理念を具体化した「個人目標」を設定し、半年ごとに面接して振り返っている。	ホーム全体で理念について話し合っていて欲しい。全員が同じ方向を向き、更なる理念の実現に向け取り組むことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナのため散歩時に挨拶をする程度で、地域の方たちとの交流が減ってしまった。	食材の買い物などで地域に出向くことは多いが、コロナ禍のため、地域交流は自粛している。日課の散歩では、地域住人と挨拶を交わしている。近隣住人から果物のお裾分けもあり、再開が待たれるところである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(入居)相談などの際には、アドバイスや相談には乗っているが、事業所として積極的な取り組みは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催しているが、今年度はコロナ感染防止のため、書面で開催。そのためご意見などは頂けていない。	コロナ禍により、運営推進会議は書面開催を継続中である。運営推進会議の議事録を作成し、地域メンバーにはポスティングし、地域包括支援センターには送付している。	議事録の送付時に返信用の意見書を付けたら、電話で意見を聞くなどして、運営推進会議のメンバーから意見を頂き、ホームの運営に活かすことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所には、保護課へ生活保護者の手続きなどで訪問している。特に保護係とは利用者情報の交換を行い、相談を受けている。	生活保護受給者が2名いることから、区の保護係とは密に連携を図っている。介護保険課や相談指導課、地域包括支援センターなどに生活保護受給者の相談の電話をしつたりして、連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵などでの拘束が無いよう、注意しあっている。防犯上、玄関の施錠は行うようになった。	3ヶ月毎に身体拘束的施課のための委員会を開催し、身体拘束をしていないか、ホーム内の支援を確認している。センサー使用可否の検討をしたり、言葉についても管理者やリーダーがその場で注意をして職員の意識向上を図っている。利用者の安全のため、玄関には施錠がしてある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、熟知しているとは言えないが、ソラスクールなどで学ぶ機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	親族による後見人や弁護士、NPOなどの支援を受けている利用者はいる。また紹介したケースはある。職員全体では、制度の理解がなされていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談や契約時に説明を行っている。また、必要に応じて書面などでお知らせをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族の来所時に声をかける等して、状況を伝えながら、コミュニケーションを図り、意見や要望を気軽に話せるような雰囲気作りに努めている。要望等があれば、要望に添えるよう取り組んでいるが、コロナ禍のため、機会が減っている。	コロナ禍のため、短時間面会時や電話・メール・ホーム便り等で、家族に利用者の近況を伝えている。家族から「生活の様子を連絡頂いて安心」との言葉がある。家族は管理者やリーダーに直接意見・要望を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者はエリアマネージャーからの報告を受け、改善に取り組んでいる。管理者は月一回の全体ミーティングで、職員と意見交換を行っている。また、月一回の運営会議にてエリアマネージャーへ報告や相談を行っている。	会議や面談で意見を述べる機会もあるが、管理者は職員一人ひとりに声をかけ、直接意見を聞くように努めている。聞き取った意見を会議で検討し、実現に繋げている。職員からは、「相談しやすく風通しが良い」との声がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	エリアマネージャーの報告にて状況を把握しており、必要に応じて管理者が個別に面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人独自のソラスクール(通信教育)を活用して、研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のためほとんど機会が無かった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実地調査で情報収集を行い、本人とご家族と話す機会を設けている。利用者の安心につなげて行くように、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時にお話を伺い、実地調査や契約時にも要望を伺うようにしており、随時相談に乗れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に意見やアドバイス等を伝えることはあるが、他のサービスとの調整は行っていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	名前で呼び、親近感をもって接している。協力して出来る事は手を借り、出来ない事は共に行い、同じ時間を過ごすように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所した際や電話にて、日頃の様子をお話したり、わからない事、疑問などを話し合える関係を築いているが、中には家族と疎遠になっている方もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナにより面会や外出ができなくなったので、電話やTV電話で支援している。	コロナ禍のため、馴染みの場所や関係の継続が難しくなっているが、「声でも聴かせたい」との家族要望に電話を取り次いだりして、関係継続に努めている。新聞購読や裁縫、家事など、生活習慣を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特に本人が拒否しない限り、利用者同士が自由に交流しあえるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関係は、殆どの方が疎遠になっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に介護者からの疑問、意見をフロアリーダーへの相談という形で本人に代わって職員同士の介護方針として決めている。また、さりげなく本人様から聞ける様、コミュニケーションをとっている。	日常生活の中で利用者の思いを把握するため、言葉だけでなく行動や動作、小さなサイン等を見逃さずに情報を集めている。汲み取った思いを「介護記録」に記載して共有し、検討して実現に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用者、ご家族等にお話を伺い、アセスメントシートを利用して生活歴を把握できるよう努めているが、中々ケアプランに反映しない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者と接しながらどのような状況か、どれ位の残存機能があるかの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士の会話や計画作成時、全体ミーティングで出た意見を基に作成して。利用者に合わせて見直し、変化があれば随時見直しがされている。また、利用者からの希望、ご家族からの要望をは寧ろできるよう努めている。	計画作成担当者が、利用者本人や家族から聞き取った要望などの意向を反映した介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを行って見直しを行い、全体ミーティングで職員は共有している。	家族の意向は把握しているが、達成度が分かりづらい。具体的な目標を設定し、本人・家族・職員が、達成感を得られる介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の記録に日々の様子や、ケアの検証を記録している。気付いた事など普段とは違う事に関しては、申送りやケース記録に記入し、介護計画の見直しに生かしている。ただ実践が出来ない事もあり、改善点があるように思われる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画にない利用者のニーズを出来る限り叶えられる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月二回の定期往診、及び緊急時の対応。本人のかかりつけ医での受診は、ご家族に協力を求め、入居の際には協力医か、かかりつけ医かを相談している。	全員が協力医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。看護師資格を持つ職員が健康チェックを行い、協力医と連携を図っている。専門医の受診は家族対応だが、家族の都合によっては職員が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週三日勤務しており、健康上の問題は相談している。緊急時等も電話で指示を仰ぎ対応している。必要に応じて看護師の指示のもと、病院受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に利用者の情報(サマリー)を提供し、医師や家族、職員で話し合いながら早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家族の意向を確認し、医療関係者との連携を図っている。家族、医師、看護師の協力の下、状況に合った利用者への支援を見極め、チームで支援を行っている。	入居時に「看取り指針」を説明している。その時が来たら、家族と医師、ホームとが話し合い、支援の方針を決めている。家族の希望で宿泊もでき、家族との時間も大切にしている。方針に沿って看護職員が職員にアドバイスをするなど、職員の安心に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所内に緊急連絡表があり、掲示している。いつでも看護師と連絡が取れ、指示を受けることができる。応急手当や訓練などは一部の職員は、対応できるが、全職員とは言い難い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行えていないため、全職員が身に付けているとは言い難い。地域との協力体制は築いていない。	年2回(日中・夜間)、火災想定で避難訓練を実施している。水害については口頭で伝達をしている。1週間分の飲食料を分散備蓄している。	夜間の災害発生時には地域の協力が不可欠であり、運営推進会議の議題として取り上げたり、避難訓練に参加を促す等して、地域との協力関係を築くことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、自尊心を傷付けない様に意識して声かけをするように努めている。ただしトイレで排泄時に、扉が開いている事がよくある。	ホームは大きな家族であり、あえて利用者の呼称は「名前」にさん付けをしている。利用者の嫌がることや否定はせず、利用者の尊厳の尊重に努めている。トイレや入浴支援の際は、羞恥心やプライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一部の利用者が、希望等を表したり出来ている。働きかけはしているが、支援につながりにくい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで生活できるように支援しているが、職員が業務を優先してしまう事も多々ある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に選択が出来る方は、職員と服を選んだりしている。出来る限り、身だしなみを整えるように努めている。髪型などは、本人の意思表示や、必要性があれば、カットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る力を活かしながら、準備や片付けを一緒に行っている。	利用者に声をかけながら、2日分の献立を決めている。職員は食事場が利用者が力を発揮できる場面であることを理解している。利用者が、能力に応じて食事の一連の動きに参加出来るよう言葉かけを行い、見守り支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は全利用者チェックしており、水分チェックは必要な方のみ行っている。食事のバランスは考えているが、栄養バランス等は考慮するまでに至っていない。食べる量は個々に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩や食後に声かけや介助にて行っている。訪問歯科にて必要な方は、チェックしている。また家族からの希望、訪問歯科の指示にて、一日三回行なっている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。個別にトイレチェックを行っている。	排泄自立者が多く、見守りと確認を中心に取り組んでいる。定時誘導や一人ひとりに合わせた声掛けを行い、職員はチェック表で統計を取り、利用者に合わせた誘導に活かしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを取り入れているが、改善されない方は、医師や看護師の指導の下、薬を服薬している。散歩なども取り入れているが、コロナのため毎日行けていない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は、午後より入浴可能である。入浴時間については、業務優先になっている。また拒否される方への対応に困る事がある。	毎日の入浴準備があり、利用者には週2~3回の入浴機会がある。拒否する利用者には無理強いせず、同性介助等、柔軟に対応している。出来ることは自分で出来るように、利用者の安全を確保しながら見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分で意思表示が出来ない方は、ケアプランに盛り込んだり、様子を見て休んで頂いている。出来る方は思い思いに休んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	普段服用している薬は、説明書で確認出来るようにしているが、全職員が把握しているとは思われない。新しく処方されたものは、記録や申し送りノートで全職員が確認できるようになっている。また誤薬がないように、日付、名前を読み上げて一人ずつ手渡しにて、服薬して頂いている。空の袋を毎食後飲み忘れがないか、チェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自身で意思表示できる方は、出来る限りの支援はしている。出来ない方は以前から好きだった事を続けられるよう努めているが、職員の都合による所が多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、散歩やドライブなどで外出支援を行っているが、希望には添えていない。	コロナ禍のため、外出支援は自粛中である。日課の散歩やドライブを行い、気分転換を図っている。利用者の「わいわいしたい」の言葉から、庭でバーベキューを行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則現金の持ち込みができないため、立替で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに電話を設置していつでも使えるようにしている。家族への電話希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特別な事はしていないが、利用者が不快に思う場面も見受けられない。クリスマスや正月などの飾り付けをして、季節感を味わえるよう工夫している。	新型コロナウイルス感染症の感染予防として、今年度は視察無し。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席などで対応はしているが、特別な工夫はなされていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのあるものを持ち込んでもらい、心地よく過ごせるようにしているが、ご家族の都合などで、新品を用意されてしまうことがある。イベントなど作った作品などを飾っている方もいる。	新型コロナウイルス感染症の感染予防として、今年度は視察無し。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を掛け、トイレには張り紙をする事で、少しでも混乱しないよう配慮している。脱衣所に手すりを追加したり、安全面にも配慮している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391000425		
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	グループホームやすらぎの里 中野新町 (2階)		
所在地	愛知県名古屋市東区中野新町3丁目51番地		
自己評価作成日	令和4年2月18日	評価結果市町村受理日	令和4年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2391000425-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2391000425-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立を尊重し、やれることはやって頂く。
---------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔と挨拶と助け合い 愛にあふれる中野新町作り」を理念とし、実践につながるよう努力している。散歩の際は挨拶を心掛けている。地域の方がホームに足を運んでくれるようにイベントの呼びかけをしている。(コロナで今年度は中止)		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナのため散歩時に挨拶をする程度で、地域の方たちとの交流が減ってしまった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(入居)相談などの際には、アドバイスや相談には乗っているが、事業所として積極的な取り組みは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催しているが、今年度はコロナ感染防止のため、書面で開催。そのためご意見などは頂けていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所には、保護課へ生活保護者の手続きなどで訪問している。特に保護係とは利用者情報の交換を行い、相談を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵などでの拘束が無いよう、注意しあっている。防犯上、玄関の施錠は行うようになった。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、熟知しているとは言えないが、ソラスクールなどで学ぶ機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	親族による後見人や弁護士、NPOなどの支援を受けている利用者はいる。また紹介したケースはある。 職員全体では、制度の理解がなされていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談や契約時に説明を行っている。また、必要に応じて書面などでお知らせをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族の来所時に声をかける等して、状況を伝えながら、コミュニケーションを図り、意見や要望を気軽に話せるような雰囲気作りに努めている。要望等があれば、要望に添えるよう取り組んでいるが、コロナ禍のため、機会が減っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者はエリアマネージャーからの報告を受け、改善に取り組んでいる。管理者は月一回の全体ミーティングで、職員と意見交換を行っている。また、月一回の運営会議にてエリアマネージャーへ報告や相談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	エリアマネージャーの報告にて状況を把握しており、必要に応じて管理者が個別に面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人独自のソラスクール(通信教育)を活用して、研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のためほとんど機会が無かった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実地調査で情報収集を行い、本人とご家族と話す機会を設けている。利用者の安心につなげて行くように、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時にお話を伺い、実地調査や契約時にも要望を伺うようにしており、随時相談に乗れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に意見やアドバイス等を伝えることはあるが、他のサービスとの調整は行っていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	名前で呼び、親近感をもって接している。協力して出来る事は手を借り、出来ない事は共に行い、同じ時間を過ごすように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所した際や電話にて、日頃の様子をお話したり、わからない事、疑問などを話し合える関係を築いているが、中には家族と疎遠になっている方もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナにより面会や外出ができなくなったので、電話やTV電話で支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特に本人が拒否しない限り、利用者同士が自由に交流しあえるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関係は、殆どの方が疎遠になっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に介護者からの疑問、意見をフロアリーダーへの相談という形で本人に代わって職員同士の介護方針として決めている。また、さりげなく本人様から聞ける様、コミュニケーションをとっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用者、ご家族等にお話を伺い、アセスメントシートを利用して生活歴を把握できるよう努めているが、中々ケアプランに反映しない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者と接しながらどのような状況か、どれ位の残存機能があるかの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士の会話や計画作成時、全体ミーティングで出た意見を基に作成して。利用者に合わせて見直し、変化があれば随時見直しがされている。また、利用者からの希望、ご家族からの要望をは寧ろできるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の記録に日々の様子や、ケアの検証を記録している。気付いた事など普段とは違う事に関しては、送りやケース記録に記入し、介護計画の見直しに活かしている。ただ実践が出来ない事もあり、改善点があるように思われる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画にない利用者のニーズを出来る限り叶えられる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月二回の定期往診、及び緊急時の対応。 本人のかかりつけ医での受診は、ご家族に協力を求め、入居の際には協力医か、かかりつけ医かを相談している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週三日勤務しており、健康上の問題は相談している。緊急時等も電話で指示を仰ぎ対応している。必要に応じて看護師の指示のもと、病院受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に利用者の情報(サマリー)を提供し、医師や家族、職員で話し合いながら早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家族の意向を確認し、医療関係者との連携を図っている。家族、医師、看護師の協力の下、状況に合った利用者への支援を見極め、チームで支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所内に緊急連絡表があり、掲示している。いつでも看護師と連絡が取れ、指示を受けることができる。 応急手当や訓練などは一部の職員は、対応できるが、全職員とは言い難い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行えていないため、全職員が身に付けているとは言い難い。 地域との協力体制は築けていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、自尊心を傷付けない様に意識して声かけをするように努めている。ただしトイレで排泄時に、扉が開いている事がよくある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一部の利用者が、希望等を表したり出来ている。働きかけはしているが、支援につながりにくい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで生活できるように支援しているが、職員が業務を優先してしまう事も多々ある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に選択が出来る方は、職員と服を選んだりしている。出来る限り、身だしなみを整えるように努めている。髪型などは、本人の意思表示や、必要性があれば、カットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る力を活かしながら、準備や片付けを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は全利用者チェックしており、水分チェックは必要な方のみ行っている。食事のバランスは考えているが、栄養バランス等は考慮するまでに至っていない。食べる量は個々に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩や食後に声かけや介助にて行っている。訪問歯科にて必要な方は、チェックしている。また家族からの希望、訪問歯科の指示にて、一日三回行っている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。個別にトイレチェックを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを取り入れているが、改善されない方は、医師や看護師の指導の下、薬を服薬している。 散歩なども取り入れているが、コロナのため毎日行けていない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は、午後より入浴可能である。入浴時間については、業務優先になっている。また拒否される方への対応に困る事がある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分で意思表示が出来ない方は、ケアプランに盛り込んだり、様子を見て休んで頂いている。出来る方は思い思いに休んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	普段服用している薬は、説明書で確認出来るようにしているが、全職員が把握しているとは思わない。新しく処方されたものは、記録や申し送りノートで全職員が確認できるようになっている。また誤薬がないように、日付、名前を読み上げて一人ずつ手渡しにて、服薬して頂いている。空の袋を毎食後飲み忘れがないか、チェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自身で意思表示できる方は、出来る限りの支援はしている。出来ない方は以前から好きだった事を続けられるよう努めているが、職員の都合による所が多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、散歩やドライブなどで外出支援を行っているが、希望には添えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則現金の持ち込みができないため、立替で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに電話を設置していつでも使えるようにしている。家族への電話希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特別な事はしていないが、利用者が不快に思う場面も見受けられない。クリスマスや正月などの飾り付けをして、季節感を味わえるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席などで対応はしているが、特別な工夫はなされていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのあるものを持ち込んでもらい、心地よく過ごせるようにしているが、ご家族の都合などで、新品を用意されてしまうことがある。イベントなど作った作品などを飾っている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を掛け、トイレには張り紙をする事で、少しでも混乱しないよう配慮している。脱衣所に手すりを追加したり、安全面にも配慮している。		